

ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)情勢月報(2023年11月分)

2023年12月

在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本国大使館

目次(以下は主なトピックを抜粋)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●[コシャラツ通商・経済関係大臣の解任要求\(21日\)](#)

●[ヘレズ国防大臣の解任要求\(27日\)](#)

(2) エンティティ、特別区

ア ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

●[ヘルツェゴビナ・ネレトバ・カントン新政府の発足\(15日\)](#)

●[サラエボ・カントン新政府の発足\(15日\)](#)

イ スルプスカ共和国(RS)

●[RS政府機関サイトのドメイン変更\(2日\)](#)

●[RS閣僚等に対する米国の制裁\(16日\)](#)

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●[コムシッチ大統領評議会議長の国連安保理における演説\(2日\)](#)

●[EUFORマンデートの延長決定\(2日\)](#)

●[欧州委員会による年次報告書の発表\(8日\)](#)

●[ストルテンベルグNATO事務総長のBH訪問\(19日～20日\)](#)

(2) 二国間関係

●[大統領評議会3メンバーの訪仏\(9～11日\)](#)

(3) 日・BH関係

●[忍者レクチャーの開催\(9日\)](#)

●[日本映画祭の開催\(8～11日、23～24日\)](#)

●[令和3年度草の根無償資金協力事業「ブロード市ブロード診療所X線撮影装置整備計画」引渡式\(22日\)](#)

3. 経済

(1) 経済指標(出典: BH統計局)

(2) 経済政策・公共事業

(3) 経済協力

(4) 民間セクター

(注: この月報は、当地紙報道などの公開情報を取りまとめたものです。)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●コシャツツ通商・経済関係大臣の解任要求(21日)

21日、BH下院における野党議員団(ボレノビッチPDP党首他11名)は、本年BHで多発した女性に対する暴力・殺害事件(フェミサイド)を背景とし、配偶者に対する暴力を理由として、コシャツツBH副首相兼通商・経済関係大臣の解任要求書簡をチャバラBH下院議長宛てに提出した。報道によれば、与党の一部議員からも辞任要求のイニシアティブに加わりたいという要望があったが、書簡に与党議員の署名は含まれていない。

コシャツツ大臣は2020年、暴力及び脅迫について元妻から起訴されているが、同大臣に対する警察機関等による捜査は実施されていない。

●ヘレズ国防大臣の解任要求(27日)

27日、BH下院のSNSD議員団は、ヘレズBH副首相兼国防大臣の解任要求イニシアティブを立ち上げる旨発表した。本件は、ヘレズ大臣がN1テレビに対し、RSの領域内にロシアの準軍事組織のキャンプが存在し、訓練を実施していると述べたことを受けたもの。今般解任要求を行っている議員団は、ヘレズ大臣の発言には根拠がなく、BHの政府機関の信頼性を損なうものであると批判したほか、そもそも同大臣は過去に犯罪行為に複数回関与しており、閣僚には不適格である他、就任後の様々な発言にも国防大臣として不適切なものが多数見られる旨指摘している。

(2) エンティティ、特別区

ア ポスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

●ヘルツェゴビナ・ネレトバ・カントン新政府の発足(15日)

15日、政党間の連立交渉がまとまったことにより、ヘルツェゴビナ・ネレトバ・カントン(県都:モスタル)の新政府が9年ぶりに発足した。新カントン首相には同カントン初の女性首相となるマリヤ・ブハチ氏(HDZ)が就任した。

●サラエボ・カントン新政府の発足(15日)

15日、連立政党の変化に伴う解散後、新たなサラエボ・カントン政府が発足した。連立からはBHのための党(SBiH)が離脱し、首相には解散前と同じくニハド・ウク首相(NS)が就任した。

イ スルブスカ共和国(RS)

●RS政府機関サイトのドメイン変更(2日)

2日、RS政府は、これまで政府機関のWebサイトで使用していた「.net」ドメインが使用不能となったことから、セルビア本国と同様の「.rs」ドメインの使用を開始する旨発表した。10月26日より、米国の経済制裁によってRS政府が利用していたドメイン「vladars.net」が停止されたことによる。

RS政府によれば、ドメインの停止による、政府機能やデータの損失はなかった。一方、これまで利用してきたドメイン「vladars.net」の使用料は2025年2月分まで米国企業に支払っていたところ、訴訟の準備を開始した旨発表している

●RS閣僚等に対する米国の制裁(16日)

16日、米国財務省はジョキッチRS鉱業・エネルギー大臣、ツビエティノビッチNSエンジニアリング社社長(SNSD執行部役員)及びペロビッチ駐ロシア・RS代表に対する経済制裁を発表した。理由は主としてロシアとの関係

強化に資する動きにより、BHの不安定化をもたらしたためとされている。

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●フォン・デア・ライエン欧州委員長のBH訪問(1日)

1日、フォン・デア・ライエン欧州委員長がBHを訪問し、大統領評議会メンバー(コムシッチ議長はNY訪問中のため不在)及びクリシュト閣僚評議会議長と会談した。フォン・デア・ライエン委員長は、今般EUが新たに決定した対西バルカン支援パッケージ(60億ユーロ)に言及しながら、現在のBHにおける改革の成果を評価しつつ、共通地域市場の創設等に向けた改革の重要性を強調した。

●コムシッチBH大統領評議会議長の国連安保理における演説(2日)

2日、コムシッチBH大統領評議会議長は国連安保理におけるBH情勢に係る会合で演説を実施した。その中で、同議長はシュミット上級代表の正当性の問題について、自らは評価する立場にないとしつつも、「5+2」アジェンダの達成までOHRがBHに必要であると評価。他方、昨年10月のボン・パワー行使による選挙法等改正を中心として、シュミット上級代表による決定にはバイアスがかかっており、民族的分断を強化しているとして批判した。

また、コムシッチ議長は、クロアチアがBH及びシュミット上級代表への影響力を行使して自己の政治権益を守ろうとしていると批判。これにクロアチアの駐国連大使が反発し、批判の応酬となる一幕も見られた。

●EUFORマンデートの延長決定(2日)

2日、国連安保理会合においてEUFORア

ルテア・ミッションのマンデート延長に係る安保理決議案が全会一致で採択され、同ミッションの1年延長が決定された。

●欧州委員会による年次報告書の発表(8日)

8日、欧州委員会はBHのEU加盟に関する年次報告書を発表。迅速な政府発足、閣僚評議会における重要法案の採択等を評価する一方で、RSの動向及び市民社会への抑圧的政策等に懸念を発表した。その上で、さらなる欧州基準への調和が行われた後でとの条件付で、BHのEU加盟交渉開始を勧告した。

欧州委員会は、来年3月までを期限に引き続き状況を見極めた上で、欧州理事会に対して報告書を提出する見込み。

●ストルテンベルグNATO事務総長のBH訪問(19日～20日)

19日～20日、ストルテンベルグNATO事務総長がBHを訪問し、大統領評議会3メンバー、クリシュト閣僚評議会議長(ヘレズ副首相兼国防大臣、コナコビッチ外相等同席)、シュミット上級代表等と会談した。ストルテンベルグ事務総長は、上級代表の必要性を強く認識すると共に、NATO加盟国はBHの主権と領土一体性を強く支持し、国内の分離主義的な言説やロシア等の外部からの影響を懸念していると述べたほかNATOはEU治安維持軍を支援し、BHにおける安全保障の空白地帯を許容しないと強調した。

(2) 二国間関係

●大統領評議会3メンバーの訪仏(9日～11日)

9日～11日、BH大統領評議会3メンバーはパリ和平フォーラム出席のため訪仏し、マクロン仏大統領と会談した。

また、訪問中、コムシッチ大統領評議会議長及びベチロビッチ・ボシュニャク系メンバーはク

ルティ・コソボ首相と会談し、ベルリン・プロセスの枠内における合意、とりわけ西バルカンにおける移動の自由に係る合意の履行の重要性につき意見を交わした。

●ピーチ英国西バルカン特使のBH訪問(26日～29日)

26日～29日、ピーチ英国西バルカン特使はBHを訪問し、コムシッチBH大統領評議会議長及びベチロビッチ同ボシュニャク系メンバー、カリッチ・サラエボ市長等と会談した他、スレブレニツァの虐殺追悼センターを訪問した。

ピーチ特使は、英国としてBHの欧州・大西洋統合を支持すると強調した上で、国内政治家は民族的な分断やヘイトスピーチに同調することなく、団結してより良き未来に向けた取り組みを進めるべきであると述べた。

(3) 日・BH関係

●忍者レクチャーの実施(15日)

9日、令和5年度在外公館広報文化事業として、サラエボ第三高等学校において、山田雄司・三重大学教授による忍者についての講義が実施された。実際の忍者の活動が紹介された他、ポップカルチャー等により広がっている忍者のイメージに関する講義も行われた。

講義には多くの聴衆が訪れ、会場は満席となった。



(写真:講義の様子)

●日本映画祭の開催(8～11日、23～24日)

11月8日～11日にサラエボ、23日～24日にパニャルカにおいて、それぞれ日本映画祭が開催された(10月28日にはモスタルで開催)。映画祭では「居眠り磐音」「こんな夜更けにバナナかよ」等の作品が上映され、のべ1250名以上の観客が訪れた。



(写真:上映の様子)

●令和3年度草の根無償資金協力事業「ブロード市ブロード診療所X線撮影装置整備計画」引渡式(22日)

22日、杵渕駐BH日本国大使は、令和3年度草の根無償資金協力事業「ブロード市ブロード診療所X線撮影装置整備計画」引渡式に出席した。

引渡式では、イエレミッチ同診療所所長から、供与されたX線撮影装置は市民の医療向上に役立つものであり、今般の支援で日本からの支援は2度目となることから、日本政府からの継続的支援に対する謝意が述べられた。



(写真:式典の様子)

3. 経済

(1) 経済指標(出典: BH統計局)

●産業生産指数

2023年10月の産業生産指数は、季節調整後数値で前月比2.3%のマイナス。また、前年同月比2.5%のマイナス。

●雇用／失業率

2023年9月の失業者登録数は34万6848人(うち女性20万2,617人)で、前月比で1%マイナス、前年同月比で2.7%マイナス。

●平均給与

2023年9月の平均給与(手取り)は1,264 KMで、前年同月比で9.6%のプラス。

●消費者物価数

2023年10月の消費者物価指数は前月比で0.1%のプラス。また、前年同月比で平均2.1%の上昇。食料品・ノンアルコール飲料の価格は前月比で0.1%のマイナス。

●貿易収支

2023年1月～10月のBHからの輸出総額は140.064億KM(前年同期比6.5%減)、BHへの輸入総額は231.68億KM(前年同期比2.3%減)。貿易収支は91.05億KMの赤字。

(2) 経済政策・公共事業

●モスタル地雷フリー宣言(3日)

3日、モスタル市庁舎において市街地における地雷フリー宣言式典が実施され、ボシュニャクBH民生大臣、コルディッチ・モスタル市長、マーフィー当地米国大使等が出席した。BH国内主要都市等における地雷除去プロジェクトは、サラエボでは2021年に完了、ブルチュコ特別区においては2024年までに完了予定。

マーフィー大使によれば、BH全域の75%において地雷除去が完了しているが、紛争中に埋設された地雷は未だ残留しているため、

米国も引き続き地雷除去支援を続けていく意向。

(3) 経済協力

●大気汚染対策等に係る世銀の融資(22日)

22日、アミジッチBH財相とシェルドン世銀BH・モンテネグロ事務所所長の間で、BHの保健分野に対する融資(9.23億ユーロ)及び、BH連邦各都市の大気汚染改善のための融資(4.61億ユーロ)に係る合意が署名された。

保健分野の融資の返済期限は18年、猶予期間は5年。大気汚染対策に係る融資の返済期限は31年、猶予期間は6年。

大気汚染対策に係る融資は、サラエボ、トゥズラ、ゼニツァ、モスタルの各都市における代替エネルギー源の追求、エネルギー効率の向上等に向けたプロジェクトに充てられる見込み。

(4) 民間セクター

●サラエボ空港とライアンエア社の合意(28日)

28日、サラエボ空港及びアイルランドのLC Cであるライアンエア社は共同で記者発表を実施し、2024年4月より新たにサラエボと欧州5都市(ロンドン、ミラノ、ブリュッセル、ヨーテボリ、メミンゲン)を結ぶ路線を就航することを発表した。記者発表にはBH側の代表としてニクシッチBH連邦首相、ウク・サラエボ・カントン首相等が出席した。春以降も新規路線が計画されており、10～15程度の都市との定期便の就航が見込まれている。